

「社会共生実習」活動発表会 参加者アンケート

「社会共生実習」とは、龍谷大学社会学部の全3学科が共同運営する地域連携型の実習です。



■社会
■共生
■実習

龍谷大学 社会共生実習ニュースレター

Infinity Vol.15

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2023.11.1発行

発行元
龍谷大学
社会共生実習支援室

〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田キャンパス内

社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230 FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

夏のオープンキャンパスにて活動発表をおこないました

『障がいをもつ子どもたちの放課後支援』

受講生が「放課後等デイサービスゆにこ」での実習の様子を発表しました。児童それぞれの個性を生かした方法でコミュニケーションをとることで信頼関係を築いていくということ、児童の成長のために自力でできるように支援を工夫すること、保護者の思いと児童やニーズに寄り添った支援をすることの大切さなどを学んだことを伝えました。



『地域エンパワねっと・大津中央』

過年度受講生が過去の活動「中央カメラリレー」、「あつまれ！みんなで作る絵本館」について紹介し、それぞれのプロジェクトをおこなったときの様子や工夫した点、今後の課題などを発表しました。

『農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」』

担当教員が「農福連携」について説明し、実習先「おもや」の取り組みを紹介し、「農福連携を通じた多様な人々のつながり作りのなかで、農業や（障がい者）福祉、地域社会の課題を学び、その解決策を考え、実践する」という本プロジェクトの目標を述べました。

『自治体をPRしてみる！』

担当教員から昨年度の受講生が作成したPR動画の紹介がなされ、動画を作成することでその受講生が人と交わることによって今まで自分ができなかったことができることに感謝するようになり、人間として成長したことなどが語られました。

『コミュニティの情報発信！レク龍プロジェクト』

受講生が、8月7日（月）23日（水）24日（木）に大津市真野浜水泳場でおこなった学生企画イベント「浮き輪でGO!」でのSNS、ポスター、のぼり旗などを使った広報活動や当日の様子、苦労した点などについて発表しました。



『お寺の可能性を引き出そう！ー社会におけるお寺の役割を考えるー』

受講生が、お寺で開催されているおまつりや親子教室、こども食堂などに参加することを通して、お寺は地域のつながりを作り、コミュニティを広げる場所であると感じたことを発表しました。

発表の最後には同日開催していた学生企画イベント「ご縁で繋がるフォトラリー」の会場である一念寺とライブ中継をつなぎ、企画について紹介しました。

『多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～』

東九条（京都市南区）にある「京都コリアン生活センター・エルファ」では、利用者の方と交流することにより、在日コリアンの文化を継続したり自らのアイデンティティを尊重したりする取組についても考えることができたことを発表しました。

「コミュニティカフェほっこり」では、多言語・多文化な背景をもつ人々と関わる中で、「多文化社会で多様な人々と共生して生きていくためには、お互いが求めていることについてコミュニケーションを取りながら知っていくことが改めて重要だと感じた」といった感想を述べました。



お寺の可能性を引き出そう！―社会におけるお寺の役割を考える― (猪瀬・古莊プロジェクト)

7月23日（日）に、浄土宗総本山知恩院において開催されている「サラナ親子教室」に参加させていただき、教室の先生方のお手伝いとして、子どもたちと楽しく交流させていただきました。



また、橋本三千代先生（幼稚園教諭）、神田眞晃師（執事・おてつぎ運動副本部長）、九鬼昌司師（布教部課長）、永田真隆師（布教部 おてつぎ運動係・サラナ親子教室主幹）より、子どもたちや親御さんたちに心の安らぎを提供する場としての「サラナ親子教室」についてや、その背景にあるお寺の置かれた現状についてお話を伺うことが出来ました。

今後、受講生たちがお寺でどのような活動を展開してくれるのか、楽しみにしたいと思います。



コミュニティの情報発信！レク龍プロジェクト

(久保プロジェクト)

8月7日（月）、23日（水）、24日（木）の3日間にわたり、大津市の真野浜水泳場で「浮き輪でGO!」というイベントを開催しました。いずれの日程も、イベント参加者上限枠を超える応募があり、大盛況でした。



このイベントは、人が乗れる大きな浮き輪（フロート）を引っ張って競争するもので、受講生たちはイベント当日までに進行についての検討、スタッフTシャツの作成、広報用ポスターの作成、当日の目印となるのぼり旗の作成など、さまざまな準備をおこないました。

レース中、受講生たちは、実況担当、スタート・結果発表担当、タイム・結果の記録担当、転覆時のフォロー担当とそれぞれに役割分担を決めて全てのレースを無事に進行しました。



多文化共生のコミュニティ・デザイン

～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～ (川中プロジェクト)

9月8日（金）に日本最大級のコリアタウンがある大阪の鶴橋にて、フィールドワークをおこないました。在日コリアンが集住、定住している歴史的経緯や多文化共生を巡る取組や課題、これからの目指す方向などを学びました。



今回のフィールドワークでガイドを務めてくださった宋悟（そんお）氏（NPO法人IKUNO・多文化ふらっと理事・事務局長）は、「“多文化共生”と取って代わらないような、自然に違いを認め合える関係づくりを目標に活動しています」とお話しくださいました。

今後、受講生たちは今までのフィールドワークで得た学びも生かして、東九条（京都市南区）でのプロジェクト活動に取り組みます。



いくつになっても、出かけられる！

～高齢者を元気にする介護ツアー企画～ (高松プロジェクト)

10月13日（金）に、『株式会社どこでも介護』の大西友子氏に登壇いただき、介護ツアーを企画する際に必要なことなどをご講話いただきました。



ご講話では、体調に不安やリスクを抱える高齢者向けにはどのような配慮が必要か、ツアー経路の下見をすることが非常に重要であることなど、実際に実施したツアーの写真を交えながらお話くださいました。

今後、受講生たちは高齢者の方々へインタビューをおこない、伺った意見を取り入れながらツアー計画を練っていく予定です。

